

高橋 秀裕
たかはし しゅうゆう



大正大学学長

2019年11月1日付で高橋秀裕人間学部教授が第36代学長に就任した。任期は4年。

高橋新学長は、1954年9月埼玉県生まれ。1978年早稲田大学教育学部卒業、2000年東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了。博士(学術)。埼玉県公立高校教諭、早稲田大学理工学部・大学院理工学研究科非常勤講師などを経て、2007年大正大学第1類担当准教授、2012年から同人間

学部教授。2013年同評議員、2015年学長補佐、図書館長、2019年副学長を歴任した。

専門分野は、数学史を中心とする西欧近代科学史。主にラテン語文献を通して西欧近代の数学・自然学の成立史を哲学・思想的に理解しようとしている。最近は、科学と宗教の歴史的關係にも関心を寄せている。著訳書に『ニュートン——流率法の変容』(東京大学出版会)、『カツツ 数学の歴史』(共訳、共立出版) などがある。歴代学長の専攻が仏教学や宗教学の多い同大としては、異色の経歴。

新学長は、「大正大学100年、魅力化構想とそれを実現するための働き方改革 (INNOVATE 5)」の実現に向け、建学の理念「智慧と慈悲の実践」と教育ビジョン「4つ人となる」(慈悲・自灯明・中道・共生)の下、伝統の継承と革新的創造を目指す。多忙の中でも、時折は趣味の散歩と古寺巡りを忘れなご。

『大学時報』全文検索システム導入とバックナンバーのアーカイブ化の推進



私大連ウェブサイトの『大学時報』ページ

私大連ウェブサイト内の『大学時報』ページでは、デジタル版(PDFファイル)を公開するとともに、「全文検索システム」を導入しています。また、バックナンバーは2019年11月現在、第301号(2005年3月号)から全文公開中です。

私大連公式 Facebook ページ

私大連公式 Facebook を開設しています。『大学時報』発行のお知らせはもとより、各号発行前に、座談会の開催報告や、クローズアップ・インタビューの担当インタビューによる記事投稿も行っています。ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/shidairen/>

榎崎尚夫 金沢星稜大学長。'01立教大学大学院経済学研究科博士後期課程満期退学。博士（経済学）。同年金沢経済大学（現金沢星稜大学）講師。准教授、教授を経て、'18から現職。

長谷山 彰 私大連会長・慶應義塾長。'84慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。法学博士。専門は法制史・日本古代史。'17から慶應義塾長。

平川 新 宮城学院女子大学学長。東北大学名誉教授。東北大学東北アジア研究センター長、同災害科学国際研究所所長を経て、'144月から現職。専門は日本近世史。

石川さゆり 松山東雲女子大学・松山東雲短期大学大学事務局次長、入試課長。松山東雲短期大学保育科卒。

高原幸治 桜美林大学入学部部長。桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科修了。国際交流、学群改組準備室、就職や学生の支援に係る部署を経て、現在に至る。

渡辺 篤 大正大学アドミッシンセンター課長。'02大正大学大学院文学研究科修了。大正大学事務局に入局後、学生課、教務課を経て、'18から現職。

佐藤信行 学校法人暁学園四日市大学総務・企画部次長。'92四日市大学経済学部経済学科卒。'15から現職。

兼高聖雄 日本大学芸術学部教授。'90慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了。社会心理学・メディアコミュニケーション論専攻。主著『コミュニケーション学入門』ほか。

桜田東樹 法政大学施設部環境保全課長。筑波大学卒。株式会社富士総合研究所を経て現職。ITストラテジスト、プロジェクトマネージャ、ITサービスマネージャ。

津田謹輔 帝塚山学院大学学長。京都大学名誉教授、日本糖尿病学会功労評議員など。'78京都大学大学院医学研究科修了。医学博士。'14から現職。著書『わかりやすい内科学』など。

松丸英治 昭和女子大学教学支援センター学生支援課長。'12立教大学大学院ビジネスデザイン研究科博士前期課程修了。修士（経営管理学）。学長室、IR、研究支援を経て、'19から現職。

東海林真巳 学校法人千葉学園事務局次長兼総務部長。

石川善樹 新潟薬科大学事務部東キャンパス事務室長。

田代康則 創価大学理事長。

稲葉興己 学校法人玉川学園理事（高等教育担当）。'79玉川大学文学部外国語学科卒。同年、学校法人玉川学園に入職、'15玉川大学教学部長を経て、'19から現職。

大野昌一 大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部事務長。大阪学院大学経済学部経済学科卒。'84大阪学院大学入職。

榎原暢久 芝浦工業大学教育イノベーション推進センター教授。北海道大学大学院理学研究科数学専攻博士課程単位取得退学。博士（理学）。旭川高専、茨城大学を経て現職。

森山 工 東京大学大学院執行役・副学長、大学院総合文化研究科教授。'94東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。著『墓を生きる人々』など。

佐藤涼一 東京歯科大学大学院歯学研究科衛生学講座助教。'17東京歯科大学大学院歯学研究科（衛生学）修了。博士（歯学）。'17から現職。共著『口腔衛生学2018』など。

古川一郎 武蔵野大学経営学部学部長、教授。博士（商学）。東北大学、大阪大学、一橋大学を経て、'18から武蔵野大学教授。著『マーケティング・リサーチのわな』など。

橋寺知子 関西大学環境都市工学部准教授。'93関西大学大学院工学研究科博士課程修了。博士（工学）。専門は近代建築史。『関西のモダニズム建築—1920～60年代—（共著）』など。

川島美菜 国際基督教大学 株式会社ICUサービシス在籍。'14国際基督教大学教養学部卒。教養学士（生物学）。

友沢昭江 桃山学院大学国際教養学部教授。ウイスコンシン大学マディソン校修士（歴史学）。'08から現職。共著『母語をなくさない日本語教育は可能か』（2019）など。

橘 和希 早稲田大学理工学術院統合事務・技術センター技術部職員。'12東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻修了。東海旅客鉄道株式会社を経て、'19から現職。

塚田真希 茨城県出身、東海大学卒。'04アテネオリンピック柔道女子78キロ超級で金メダル、'08北京オリンピックでは銀メダルを獲得するなど、国内外の大会で優れた成績を残した。現役引退後はスポーツ指導者海外研修員として2年間の英国研修をへて、監督およびコーチとして活躍中。

外川智恵 大正大学表現学部准教授。大正大学文学部卒。'92山梨放送入社。'01からフリーとして活動。NTT技術ジャーナルのトップインタビュアーなどを務める。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

- 11月5日(火) 第7回常務理事会に出席
- 11月6日(水) 日本私立大学団体連合会「私立大学の振興に関する協議会」を開催
- 11月7日(木) 日本私立大学団体連合会は「私立大学の振興に関する協議会」を拡大し、主要国会議員と意見交換を行いました。
- 11月7日(木) 英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」導入の見送りについて(会長コメント)公表
- 11月11日(月) 自民党文部科学部会長に令和2年度予算・税制改正を要望
- 11月19日(火) 第7回理事会、第2回秋季総会に出席
- 11月21日(木) 全私学連合「私学振興協議会」に出席
- 12月3日(火) 主要国会議員に令和2年度予算・税制改正を要望
- 12月10日(火) 第8回常務理事会に出席
- 12月11日(水) 麻生財務大臣に令和2年度予算・税制

改正を要望
● 12月12日(木)
日本経済団体連合会「採用と高等教育の未来に関する産学協議会」に出席



麻生財務大臣に
令和2年度予算・税制に関する
要望書を手交する長谷山会長

開催報告

- 11月18日(月)・19日(火) 「学生支援研究会」開催
- 「新時代の学生支援」をテーマに開催。45大学75名の参加がありました。
- 11月29日(金)・30日(土) 「第2回財務・人事担当理事者会議」開催

「あらためて学納金を考える」をテーマに、60法人84名の参加がありました。

● 12月5日(木) 「理工系学部長会議」開催

「科学技術イノベーションに向けた私立大学の役割」をテーマに開催し、理工系分野を設置する25大学から29名の学部長などの参加がありました。

● 12月11日(水)

「教育研究シンポジウム」開催

「教育活動の可視化と質向上——学生調査とアセスメント・ポリシー」をテーマに開催し、53大学113名の参加がありました。



第2回財務・人事担当理事者会議の様子

座談会 「学生の読書実態と大学の読書啓発活動」

特集 「SDGsへの大学としての取り組み」

小特集 「履修証明プログラム活用の現状」

表紙・大学点描 桃山学院教育大学 だいがくのたから 天理大学

クローズアップ・インタビュー：「村田 陽一さん（トロンボーン奏者）」

編集後記

◆読者の皆さんは学生食堂を利用していらいっしやるだろう。また、学生時代にはどうだったろうか。私自身の学生時代を思い返してみても、学生食堂を積極的に利用して、いた記憶がない。理由は、昼休みにいつも混雑していたから。混雑していればさぞ売り上げも多いだろうと当初は考えていたが、最近では業者の撤退が相次いでいるという。今回の特集では業者が撤退に至った課題がつまびらかにされており、関係者の皆さんにとって非常に有益な情報提供になったのではないだろうか。また、ここで示されている課題は非常に根が深く、一朝一夕に解決できる問題でもない。

◆執筆いただいた皆さんをはじめ、学生食堂という困難に向き合い、真摯に取り組まれている皆さんに対しては心からの敬意を表したい。

読後、混雑だけを理由に食堂を利用していなかった学生時代を反省するとともに、まずは小さな一歩であるが、これからは積極的に食堂を利用することから始めたいと思う。

（広報・情報部門会議（大学

時報）委員・法政大学多摩事務
部学務課学務担当主任 須藤 智徳

◆大学入学時、授業時間が90分であることを初めて知り、高校までの授業とは随分異なるものだと驚いた。その後、90分の授業が自分にとって常識となり数十年が経過。いやその常識は変わりつつあり、100分や105分などへ移行する大学がはじまっている。授業時間変更のきっかけや理由は一律ではないが、通底している重要な要素は「教育の質の保証」だ。

立教大学でも今年度、100分授業を導入した。たった10分の延長ではあるが、導入当初は教員、学生ともになかなか慣れない、という声をよく聞いた。FDを担当する部局は前年から先行事例を紹介する勉強会を開催し、導入後も勉強会やワークショップなどの支援を行っている。

本号に寄稿してくださった4大学には、それぞれの経緯、課題と現状を詳細に紹介していただいた。90分授業の「常識」が変わりつつあるいま、貴重な先行事例としてだけでなく、教育の向上に取り組む姿勢にも強い感銘を受けた。

（広報・情報部門会議（大学

時報）委員・立教大学広報室
長 長野 香

◆「パーソナル」なオープンキャンパス。今号座談会のキーワードといえそう。各大学のご担当者から、志願者増という命題がある中のさまざまな工夫をご紹介いただいた。高等教育の入り口という、変化著しい現場を動かす力を感じた座談会であった。ご一読いただくと、大学の雰囲気を見るだけでなく、大学のイメージだけではとても追いつかない現状を感じ取っていた。だけのように思う。

高校生はもちろん、その保護者や高等学校とのつながりも深いだけに、ぜひ関係各位にご覧いただきたい。

クローズアップ・インタビューは女子柔道で輝かしい経歴をお持ちの塚田真希さん。現在は母校である東海大学の教員でもいらっしやる。

「手間はかかっても丁寧に学生を育てる」、「対等な立場で話を育てる」——これまでのご経験から、こうしたご自身の理想をお持ちの塚田さん。やはり根底にあるのは「パーソナル」なのである。

（日本私立大学連盟事務局 榎 和代）

